



## 9・11の犠牲者、米軍の攻撃の犠牲者に心は痛む

九・一一

二〇〇一年、ニューヨークの世界貿易センタービルに旅客機が突入。ビル全体が崩壊し、二九三七人の命が失われた。同時多発テロだ。その犠牲者の家族友人達の悲しみと怒り。「もし、私とその立場だったら」と犯人に強い憤りを覚える。

アルカイダ

アメリカは同時多発テロの黒幕がアルカイダであるとして、アフガニスタン攻撃を開始。アフガニスタン戦争は未だに続いている。

イラク攻撃

更に、二〇〇二年にジョージブッシュは「イラクは大量破壊兵器を持っている」とし

てイラクを攻撃。イラクは破壊され婦女子を始め十く十二万のイラク人が殺された。しかし、大量破壊兵器は見つからなかった。元々、アメリカ中央情報局はイラクに大量破壊兵器は無いことを知っていたのだ。更に、サダム・フセインとアルカイダも関係なかった。

戦争の影で

イラク戦争では大量の巡航ミサイルや、テレビ誘導爆弾等が使われた。アメリカが「敵」とした国の国民は殺傷され、アメリカの若者は命を落としていった。一方、軍需産業は莫大な利益を上げた。九・一一から十一年。米軍に一方的に攻撃され、殺傷された大量の市民に私の心は痛む。皆さんはどう思われますか？

## 潮干狩り遊漁券売り場

(相馬市松川浦)



前号は相馬市の松川浦の太平洋に近い所の絵でした。今回はその松川浦の奥の方の景色。岸壁の傍に、潮干狩り遊漁券売り場があった。引き潮の時には海面は岸壁より数十センチ低い。しかし、満潮となると絵のように、岸壁は水没。遊漁券売り場は海水に洗われる。遊漁券売り場に並んで杭が立っている。そこが海との本来の境。その杭に船を繋ぐのだが、満潮の時にはジャブジャブ歩いて行かなければならない。元々は満潮でもそこまで海水に浸かることは無かったのだが、地震で地盤が数十センチ沈下したようだ。この絵を描いたのは日曜日。お父さんが男の子を連れて来て、波打ち際を歩いてみた。